

2003
12

■編集 西区役所総務企画課広聴係
〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1
TEL 641-2400 内線224~226
FAX 612-5264

○西区広報番組「西区情報プラザ」
FMラジオ三角山放送局76.2MHz
毎週月曜日午前11時~

○西区ホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/nishi/>



高校の修学旅行で訪れた京都で目にした小さな観音像。その印象が強く心に残っていた橋本紀比古さんは、十九歳の時、「何かものづくりの仕事をした」との思いから京都に赴き、昭和四十六年に京陶人形作家宮崎琢磨氏に師事。あこがれの地で陶人形制作の第一歩を踏み出しました。

「最初から北海道に戻るつもりだった」と言う室蘭出身の橋本さん。5年半の修業後、京都で知り合った奥様と北海道へ戻り、昭和五十一年に西区平和に窯を構えて以来、札



創作陶人形作家

はしもと
橋本

のりひこ
紀比古さん (52)

どうげんしゃ
陶玄舎

西区平和396-6
TEL 662-6715

まちの人

苦勞した作品ほど
いとおいしいですね。

幌で創作活動を続けています。「作品のイメージはいろいろな場面で浮かびますね」。昭和五十五年から干支の土鈴作りに取り組んでいる橋本さんですが、来年の干支、申の土鈴のデザインは、息抜きに手稲山に散歩に行った時にふと目にした河原の石がヒントになりました。「く」の字に曲がついた石を見て、母猿が子猿を背負っているイメージが浮かびました。そんなこともあるんです」と笑います。

もともとお世話になった人たちへのお礼にと作り始めた



▲来年の干支土鈴を制作中の橋本さん

干支の土鈴は、手のひらに乗る大きさで、優しい風合いは見る人の心を和ませてくれます。昨年制作した未の土鈴は平成十五年用年賀切手のデザインに採用されました。

北海道美術協会（道展）会員でもある橋本さん。「今後作ってみたい作品は」との質問に、「再来年の道展八十周年を自分の節目とも考え、人形の枠を超えた大きさの思い切ったものに挑戦したい」と意気込みを語ってくれました。